

## 沖縄県学校栄養士への調査結果から

調査：沖縄県の学校給食における地産地消及び食育に関するアンケート調査  
 対象：沖縄県内の全学校給食施設である111施設に所属する学校栄養士（1施設で1名）を対象  
 回収数：82部（回収率は73.1%）  
 調査期間：2016年7月～2017年2月  
 回答者：栄養教諭32.1%、学校栄養職員64.2%、その他3.7%  
 給食施設の運営方式：直営方式68.3%、委託方式31.7%

表1 学校給食に地域産・県産食材を利用する重要性

項目	回答数	割合(%)
とてもそう思う	55	67.1
そう思う	25	30.5
どちらともいえない	2	2.4
あまりそう思わない	0	0.0
全くそう思わない	0	0.0
合計	82	100.0

表3 地域産・県産をこれまで以上に増やしたいか

項目	回答数	割合(%)
とてもそう思う	51	62.2
そう思う	28	34.1
どちらともいえない	3	3.7
あまりそう思わない	0	0.0
全くそう思わない	0	0.0
合計	82	100.0

表2 地域産・県産の食材調達に関する意識

項目	回答数	割合(%)
かなり意識している	19	23.2
意識している	61	74.4
どちらともいえない	2	2.4
あまり意識していない	0	0.0
全く意識していない	0	0.0
合計	82	100.0

表4 調理場での地域産食材の割合への満足度

項目	回答数	割合(%)
かなり満足している	2	2.4
満足している	6	7.3
どちらともいえない	29	35.4
あまり満足していない	35	42.7
全く満足していない	10	12.2
合計	82	100.0

地域産・県産食材を使用することの重要性や使用についても意識しているものの、調理場での地域産食材の割合については、満足できていない状況。

表5 地域産・県産食材のコーディネート主体（数量・価格調整）の有無

項目	回答数	割合(%)
コーディネート主体がある	32	39.5
コーディネート主体がない	48	59.3
その他	1	1.2
合計	81	100.0

表6 コーディネート主体（複数回答）

項目	回答数	割合(%)
市町村役場の担当者	11	35.5
流通業者	9	29.0
農協・漁協等	9	29.0
地元の農家・生産者団体	6	19.4
直売所・ファーマーズマーケット	6	19.4
その他	2	6.5
有効回答数	31	

表8 地域産・県産食材導入の課題に関するAHPの分析結果

項目	重要度
生産・供給面（量の確保や品質、価格等）の課題	0.288
予算面の課題	0.233
関係主体連携の課題	0.201
食材処理（調理の過程までの一次加工等）の課題	0.140
情報（旬や生産量、価格等の情報）整備の課題	0.137
C.I.	0.020

表7 今後地域産食材の割合を高めるために連携したい主体（複数回答）

項目	回答数	割合(%)
地元の農家・生産者団体	63	77.8
農協・漁協	56	69.1
市町村役場の担当者	51	63.0
流通業者	45	55.6
直売所	21	25.9
県の担当者	20	24.7
食品製造業者	19	23.5
県の学校給食会	17	21.0
学校	11	13.6
保護者・PTA	10	12.3
国	5	6.2
上記以外の地域の民間団体	2	2.5
有効回答数	81	

地域産・県産食材を調達する際のコーディネーターがないという回答が約6割となっている。

今後連携したい主体には、農家・生産者団体、農協・漁協、市町村役場担当者が上位となっている。

**地域産・県産食材導入において解決すべき課題の重要度は、生産・供給面、予算面、関係主体の連携が高くなっている。**

# 今、わが国が目指す「在りたい社会像」「人材育成」に対する食育の役割

我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について  
教育未来創造会議 第一次提言



在りたい  
社会像

- ◎ 一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさの実現（ウェルビーイングを実現）
- ◎ ジェンダーギャップや貧困など社会的分断の改善
- ◎ 社会課題への対応、SDGsへの貢献（国民全体のデジタルリテラシーの向上や地球規模の課題への対応）
- ◎ 生産性の向上と産業経済の活性化
- ◎ 全世代学習社会の構築

目指したい  
人材育成

## ◎ 未来を支える人材像

好きなことを追究して高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく人材

### <高等教育で培う資質・能力>

リテラシー/論理的思考力・規範的判断力/課題発見・解決能力/未来社会を構想・設計する力/高度専門職に必要な知識・能力

## ◎ 今後特に重視する人材育成の視点 ⇒ 産学官が目指すべき人材育成の大きな絵姿の提示

- ・ 予測不可能な時代に必要な**文理の壁を超えた普遍的知識・能力を備えた人材育成**
- ・ デジタル、人工知能、グリーン（脱炭素化など）、農業、観光など科学技術や地域振興の成長分野をけん引する高度専門人材の育成
- ・ 現在女子学生の割合が特に少ない**理工系等を専攻する女性の増加**（現在の理工系学生割合：女性7%、男性28%）
- ・ 高い付加価値を生み出す**修士・博士人材の増加**
- ・ 全ての子供が**努力する意思があれば学ぶことができる環境整備**
- ・ **一生涯、何度でも学び続ける意識、学びのモチベーションの涵養**
- ・ 年齢、性別、地域等にかかわらず**誰もが学び活躍できる環境整備**
- ・ 幼児期・義務教育段階から**企業内までを通じた人材育成・教育への投資の強化**

現在35%にとどまっている自然科学（理系）分野の学問を専攻する学生の割合についてOECD諸国で最も高い水準である5割程度を目指すなど具体的な目標を設定

資料：内閣官房教育未来創造会議

**真の豊かさを実現するイノベーションを起こすことができる人材育成**  
**グリーンでウェルビーイングな社会の構築とSDGsに貢献できる人材育成が求められている**

# 高等教育に求められている機能強化

## 1. 未来を支える人材を育む大学等の機能強化



### (1) 進学者のニーズ等も踏まえた成長分野への大学等再編促進・産学官連携強化

#### ① デジタル・グリーン等の成長分野への再編・統合・拡充を促進する仕組み構築

- ・大学設置に係る規制の大胆な緩和（専任教員数や校地・校舎の面積基準、標準設置経費等）
- ・再編に向けた初期投資（設備等整備、教育プログラム開発等）や開設年度からの継続的な支援（複数年度にわたり予見可能性を持って再編に取り組めるよう継続的な支援の方策等を検討）
- ・教育の質や学生確保の見通しが十分でない大学等の定員増に関する設置認可審査の厳格化
- ・私学助成に関する全体の構造的な見直し（定員未充足大学の減額率の引き上げ、不交付の厳格化等）
- ・計画的な規模縮小・撤退等も含む経営指導の徹底
- ・修学支援新制度の機関要件の厳格化（定員充足率8割以上の大学とする等） 等

#### ② 高専、専門学校、大学校、専門高校の機能強化

- ・産業界や地域のニーズも踏まえた高専や専攻科の機能強化（デジタルなどの成長分野における定員増等）
- ・専門学校や高専への改編等も視野に入れた専門高校の充実 等

#### ③ 大学の教育プログラム策定等における企業・地方公共団体の参画促進

#### ④ 企業における人材投資に係る開示の充実

#### ⑤ 地方公共団体と高等教育機関の連携強化促進

#### ⑥ 地域における大学の充実や高等教育進学機会の拡充

#### ⑦ 地域のニーズに合う人材育成のための産学官の連携強化（半導体、蓄電池）



### (2) 学部・大学院を通じた文理横断教育の推進と卒業後の人材受入れ強化

#### ① STEAM教育の強化・文理横断による総合知創出

- ・文理横断の観点からの入試出題科目見直し
- ・ダブルメジャー、レイトスペシャライゼーションを推進するためのインセンティブ付与
- （教学マネジメント指針の見直し、設置認可審査や修学支援新制度の機関要件の審査での反映、基盤的経費配分におけるメリハリ付け等） 等

#### ② 「出口での質保証」の強化

- ・設置基準の見直しなど、ST比（教員一人当たりの学生数）の改善による教育体制の充実 等

#### ③ 大学院教育の強化

- ・トップレベルの研究型大学における学部から大学院への学内資源（定員等）の重点化 等

#### ④ 博士課程学生向けジョブ型研究インターンシップの検証等

#### ⑤ 大学等の技術シーズを活かした産学での博士課程学生の育成

#### ⑥ 企業や官公庁における博士人材の採用・任用強化



### (3) 理工系や農学系の分野をはじめとした女性の活躍推進

#### ① 女性活躍プログラムの強化

- ・女子学生の確保等に積極的に取り組む大学への基盤的経費による支援強化
- ・大学ガバナンスコードの見直し、女性の在籍・登用状況等の情報開示の促進 等

#### ② 官民共同修学支援プログラムの創設

#### ③ 女子高校生の理系選択者の増加に向けた取組の推進



### (4) グローバル人材の育成・活躍推進

#### ① コロナ禍で停滞した国際的な学生交流の再構築

#### ② 産学官を挙げてのグローバル人材育成

- ・民間企業の寄附を通じて意欲ある学生の留学促進を行う「トビタテ！留学JAPAN」の発展的推進 等

#### ③ 高度外国人材の育成・活躍推進

#### ④ 高度外国人材の子供への教育の推進

- ・インターナショナルスクールの誘致等推進 等



### (5) デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育への転換

#### ① 知識と知恵を得るハイブリッド型教育への転換促進

- ・オンライン教育の規制緩和と特例の創設 等
- ② オンラインを活用した大学間連携の促進
- ③ 大学のDX促進
- ・デジタル技術やマイナンバーカードの活用促進 等



### (6) 大学法人のガバナンス強化

#### ① 社会のニーズを踏まえた大学法人運営の規律強化

- ・理事と評議員の兼職禁止、外部理事数の増、会計監査人による会計監査の制度化 等

#### ② 世界と伍する研究大学の形成に向けた専門人材の経営参画の推進

- ・「国際卓越研究大学」における自律と責任あるガバナンス体制確立 等

#### ③ 大学の運営基盤の強化



### (7) 知識と知恵を得る初等中等教育の充実

#### ① 文理横断教育の推進

- ・高校段階の早期の文・理の学習コース分けからの転換 等

#### ② 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な取組の推進

#### ③ 課題発見・解決能力等を育む学習の充実

#### ④ 女子高校生の理系選択者の増加に向けた取組の推進【再掲】

#### ⑤ 子供の貧困対策の推進

#### ⑥ 学校・家庭・地域の連携・協働による教育の推進

#### ⑦ 分権型教育の推進

#### ⑧ 在外教育施設のエデュ環境整備の推進



## STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進

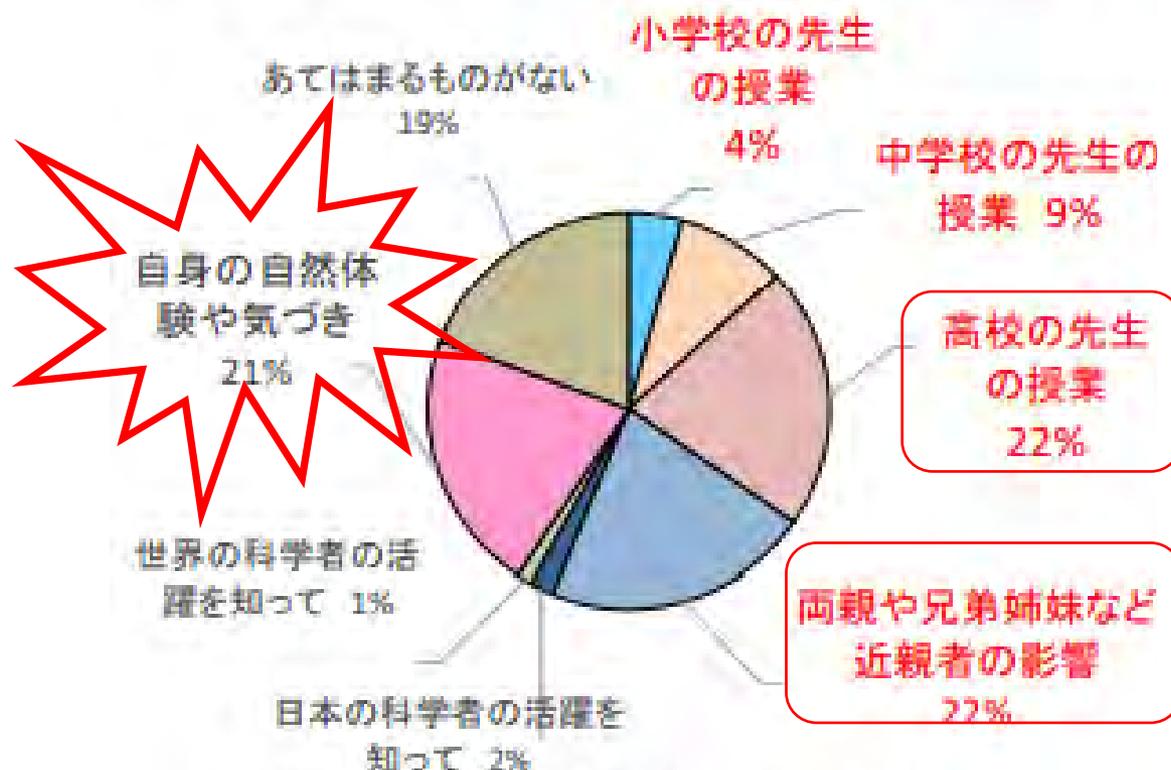
### STEAM教育とは？

文部科学省では、**STEM**（**S**cience、**T**echnology、**E**ngineering、**M**athematics）に加え、**芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲**で**Art**を定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進しています。

小・中・高においては、「変化の激しい社会に対応して、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目標にしていることから、これからの時代においてますます重要な役割を果たすものである。」として**総合的な学習(探求)**が求められています。

## 国が求める理系人材を増やすには？

(参考) 女子学生が理系の進路を選択した理由



出典：日本ロレアルによる「理系女子学生の満足度に関する意識調査」(平成26年8月)

資料：文部科学省より引用

真の豊かさを実現するイノベーションを起こすことができる人材育成には…  
**幼少期・初等中等教育からの自然に触れる教育の重要性**

## 3. 子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題

子どもの発達段階に必要な  
人・自然・身体感覚を伴う  
多様な経験

まさに、「食育」「食農教育」

### (子どもの発達段階に応じた支援の必要性)

○ 子どもの発達には、子どもが自らの経験を基にして、周囲の環境に働きかけ、環境との相互作用を通じ、豊かな心情、意欲、態度を身につけ、新たな能力を獲得する過程であるが、身体的発達、情緒的発達、知的発達や社会性の発達などの子どもの成長における様々な側面は、相互に関連を有しながら総合的に発達する。<sup>①</sup>子どもは、身近な人や自然等との関わりの中で、主体的に学び、行動し、様々な知識や技術を習得するとともに、自己の主体性と人への信頼感を形成していく。

○ 子どもはひとりひとり異なる資質や特性を有しており、その成長には個人差がある一方、子どもの発達の道筋やその順序性において、共通して見られる特徴がある。子どもは成長するに伴い、視野を広げ、認識力を高め、自己探求や他者との関わりを深めていくが、そのためには、<sup>②</sup>発達段階にふさわしい生活や活動を十分に経験することが重要である。特に、身体感覚を伴う多様な経験を積み重ねていくことが子どもの発達には不可欠であり、これらを通して、子どもの継続性ある望ましい発達が期待される。こうした観点を踏まえつつ、2. (1)で述べたような、現代の子どもたちをめぐる社会環境も考慮し、子どもの発達やその課題を踏まえた適切な対応と支援を、従来より一層、行っていくことが、重要である。

①子どもは、身近な人や自然等との関わりの中で、主体的に学び、行動し、様々な知識や技術を習得するとともに、自己の主体性と人への信頼感を形成していく。

②発達段階にふさわしい生活や活動を十分に経験することが重要である。特に、身体感覚を伴う多様な経験を積み重ねていくことが子どもの発達には不可欠であり、...

## STEAM教育の学びが詰まった食育・食農教育で SDGsに貢献し、豊かな未来を創造する

今、わが国の目指す在りたい社会像として、グリーンでウェルビーイングな社会の構築、社会課題への対応、SDGsへの貢献などが求められています。こうした課題の多くが私たちの農林水産業や地域と大きく関わっています。

こうした課題を解決できる人材育成として、新たな価値の創出やビジョンを創造できる人材、STEAM教育の強化などが求められています。

**食育や食農教育**は究極の**アクティブラーニング**であり、**STEAM教育**です。食育・食農教育の推進によって、地域から地球規模に至るまでの**食・農・環境の様々な課題の解決**が期待されるとともに、**SDGsに貢献**することができます。地域の各主体があらゆる連携をすることで次世代の人材育成に貢献できるのではないのでしょうか。

ご清聴誠にありがとうございました。